

子どもたちの食の福祉と食品ロス削減の解決に向けた
こどもスマイリング・プロジェクトを通じて
自治体・社会福祉協議会との協業による地域共生型課題解決スキーム

2024年1月30日

一般社団法人サステナブルフードチェーン協議会
こどもスマイリング・プロジェクト事務局

一般社団法人サステナブルフードチェーン協議会(SFA)



2019年9月設立・2020年1月登記

食品ロス削減など1社では取り組むことが難しいフードサプライチェーンにおけるサステナビリティの課題について緩やかなネットワークでつながった有識者と企業が解決策を検証していくコンソーシアム

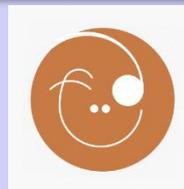
2021年～

食のサステナビリティに関して連携で取り組むプロジェクト(案)

こどもスマイリングプロジェクト

ハニービーズコミュニティ(ハニコミ)

プラスチックの2Rに関する勉強会



3つの取組

フードサプライチェーンの最適化

技術的な問題解決 × 適応課題の解決
→今後実証を検討



再流通・寄贈

食の不均衡解消 × 余剰食品の取り扱い
→オンラインコミュニティ形成・こども食堂への食育プログラム
食品寄贈に関するガイドライン検討



持ち帰りの促進

ドギーバッグの普及 × 消費者の自己責任
→ドギーバッグコンテスト



2020年～ 実証や連携した広報普及活動などを実施

2030年

より広くSDGs・ESGの取組を社会に根付かせ、12.3食品ロス半減に寄与

正会員



これまで・これから
株式会社 エックス都市研究所
EX Research Institute Ltd.
Environmental and Regional Planning, Research and Consulting

株式会社エックス都市研究所



株式会社
セブン-イレブン・ジャパン

株式会社セブン-イレブン・ジャパン



国分グループ本社株式会社



株式会社カスミ



株式会社オズマピーアール



株式会社ローソン

BOTEJYU Group
Est. 1946

BOTEJYU Groupホールディングス株式会社



ワタミ株式会社



FUORICLASSE

フォリクラッセ 様



一般社団法人
日本フランチャイズチェーン協会



賛助会員



公益財団法人 流通経済研究所

個人会員

若山 哲史 弁護士

滝沢 秀一(マシンガンズ滝沢)氏

パートナー

NPO法人 **Deepeople**
Change the world with design



ネッスー



理事等

小林 富雄

日本女子大学
家政経済学科教授

【会長】

渡辺 達朗

専修大学商学部
教授

【事務局】

市川 芳明

多摩大学
ルール形成戦略研究所
客員教授

【会計】

百瀬 則子

ワタミ株式会社 執行役員
SDGs推進本部 本部長
一般社団法人中部SDGs推進センター
副代表理事

小濱 裕正名誉理事

株式会社カスミ

安心安全で
サステイナブルな
食品寄贈を通じて
スマイルを広げたい



ことどもスマイリング・プロジェクト

一般社団法人サステイナブルフードチェーン協議会

未来のサステイナブルな消費者を育てる食育を通じて、
食品産業と子ども食堂をはじめとする子ども支援・福祉団体を運営されている方々と
関係を構築し子ども支援につなげるプロジェクト

HP: <https://www.k-smile-ring.jp/>

こどもスマイリング・プロジェクト活動内容

職業体験型食育
プログラム



食品寄贈実証
ハートドライブ
キャンペーン



食品寄贈に関する
事例勉強会



食品寄贈に関する
ガイドライン
検討会

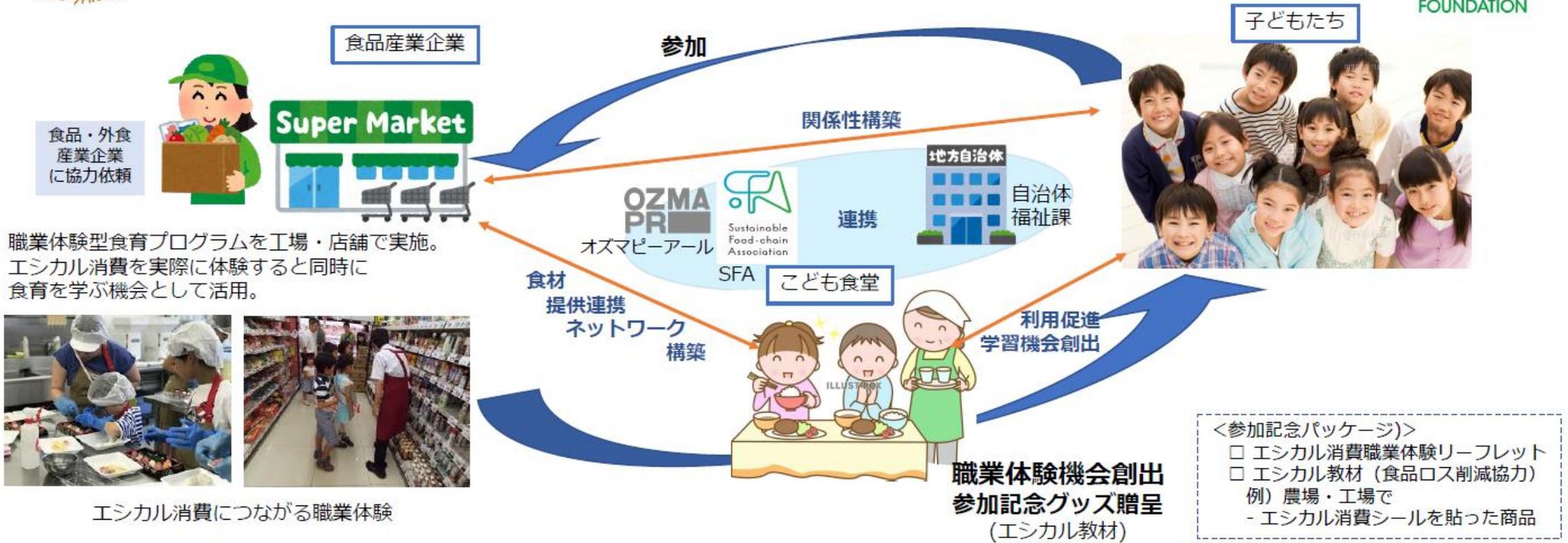


食品寄贈物流
ネットワーク実証



食品寄贈中間組織
ネットワーク実証





エシカル消費につながる職業体験



農業体験



消費期限が早い順番に並び替え 売り切る方法を学ぶ



コンビニで買える食品で 栄養たっぷりレシピを紹介



消費期限前食材を使った ピザ作り体験

夏・冬休み期間に「食」の貧困を抱える子どもたちに、通常販売する食材を企業から提供いただき、寄贈できる機会を創出するモデル事業として実施。
子ども福祉団体・子ども食堂に通う子どもたちを対象に、それぞれの拠点に合わせた配布方法で食材を提供し、休み期間の子どもたちの食の困窮の一助となるよう食品寄贈のモデル事業として実証。



◆ 寄贈配布の様子

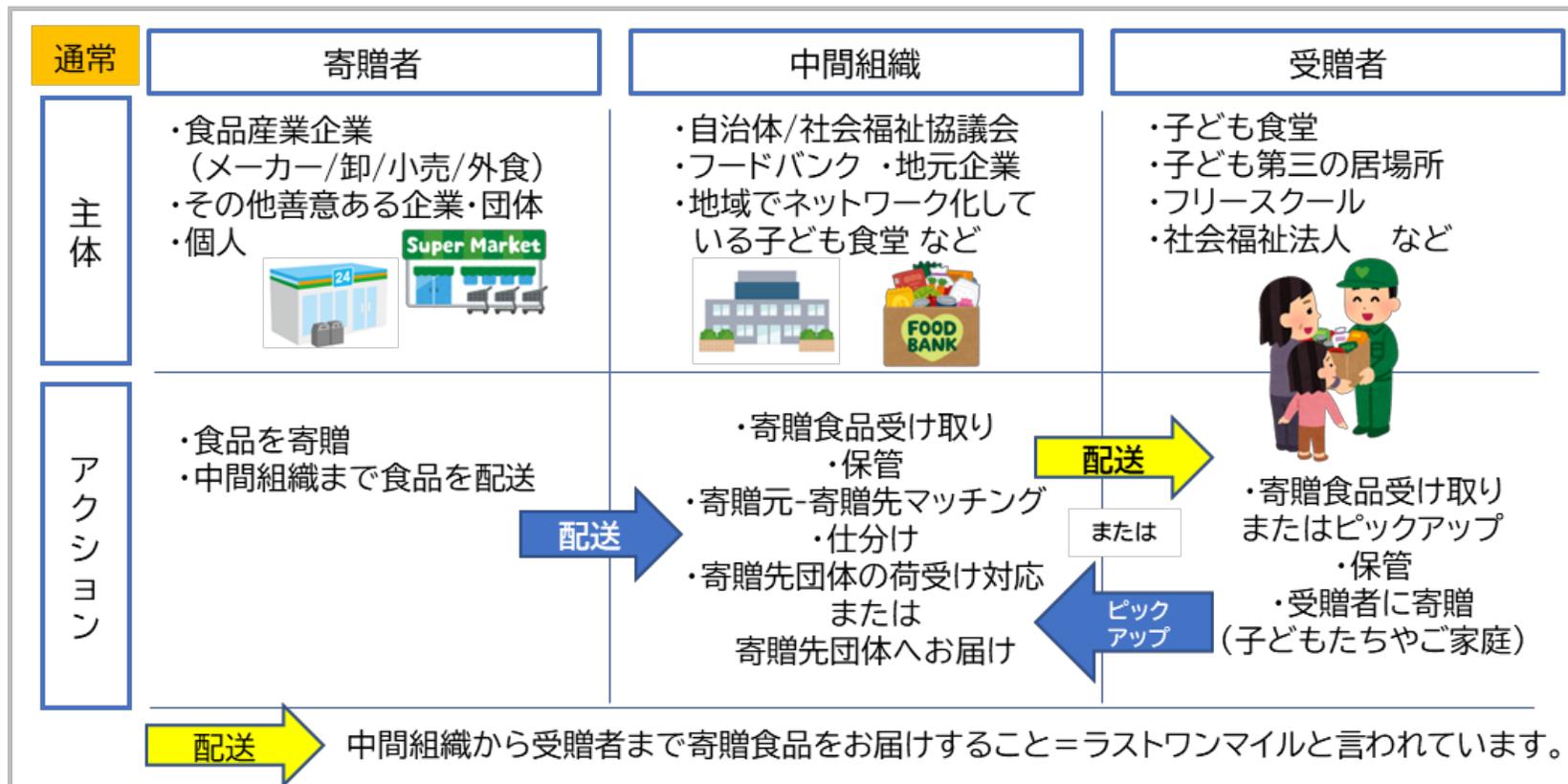


こどもスマイリング・プロジェクトを通じた
自治体・社会福祉協議会との協業事例

東大阪市×地元企業（食品提供）×地元社会福祉法人 食品寄贈
ハートドライブキャンペーン（東大阪市地域共生モデル）

活動概要	<p>長期休暇中に「食」の貧困を抱える子どもたちに、通常販売する食品を企業から提供いただき、寄贈できる機会を創出することを目的に実証モデル事業を実施。</p> <p>今回は、東大阪市にある就労継続支援B型事業所「若草工房」が運搬し、東大阪市の子ども食堂へ食品を寄贈。初の試みとして、地元の就労継続B型支援事業所にて、一次納品・仕分け・運搬業務を行いました。事業所の福祉車両を使って運搬し、利用者の方に仕分けや運搬業務を担当していただきました。</p>
実施時期	<p>2023年 7月27日 一次納品</p> <p>7月28日 仕分け</p> <p>8月3-4日 子ども食堂への寄贈 ※夏休み期間中に寄贈を実施</p>
寄贈先	東大阪市内の子ども食堂をはじめとする子ども支援団体 6団体
協力	<p>株式会社ローソン、地元農家、社会福祉法人若草会</p> <p>東大阪市こども家庭課</p>
食材	<p>株式会社ローソンより寄贈いただいたレトルト食品とお菓子</p> <p>地元農家より寄贈いただいた野菜</p>

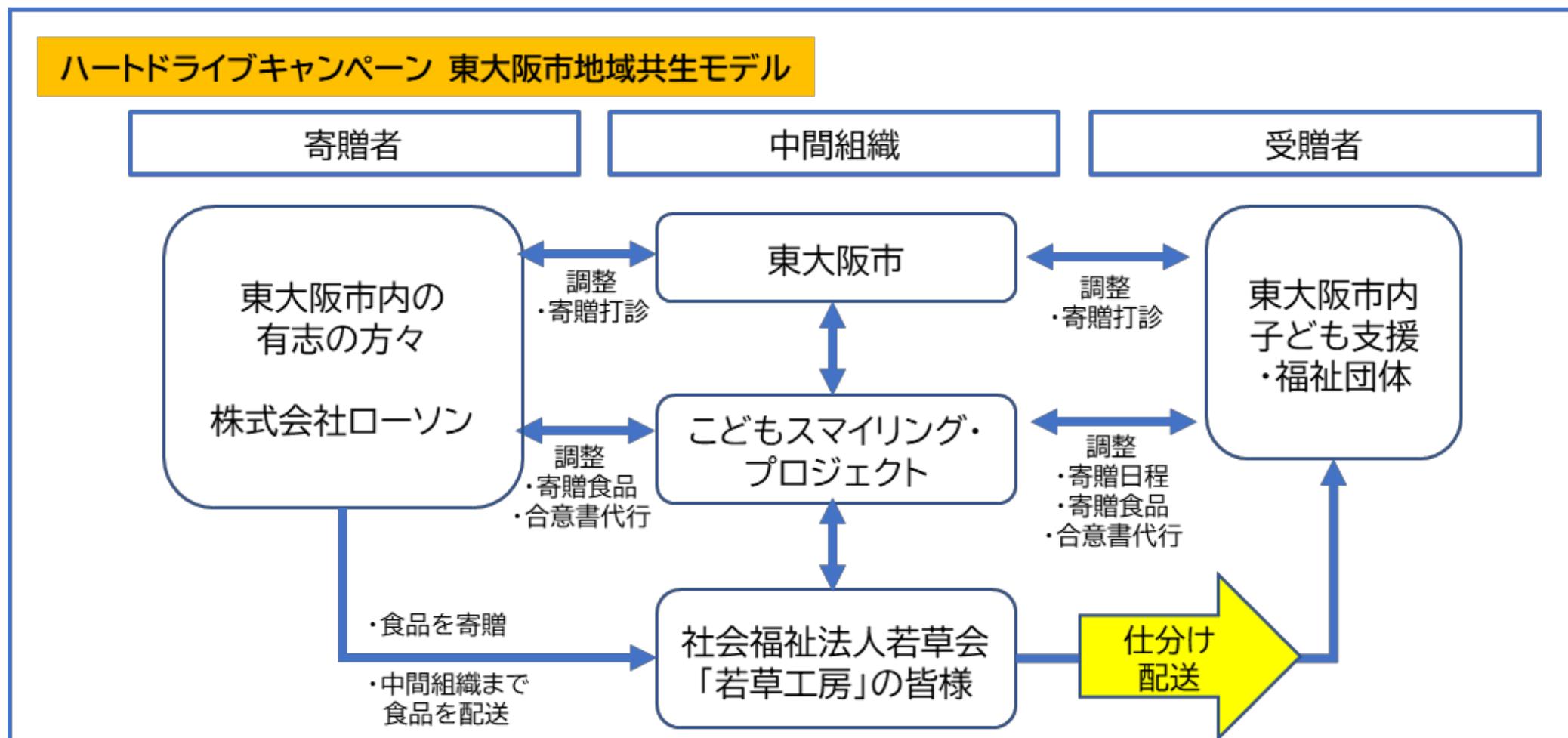
食品寄贈における課題として、必要とする団体とのマッチング、仕分け・運搬(ラストワンマイル)があり、物流スキームの確立が求められています。



<食品寄贈における課題>

現在、食品寄贈は、一部自治体やフードバンクが中間組織として企業・団体から寄贈食品を預かり、食を必要とする団体とのマッチングを図り、寄贈食品仕分け・運搬(ラストワンマイル)を担っています。しかし、全国規模では、マンパワーの不足・コスト・寄贈食品の多様化により、ラストワンマイルを担える存在が不足していることも大きな課題のひとつとなっており、食品の寄贈・マッチング・物流スキームを確立することが必要とされています。

今回初の試みとして、東大阪市には市内子ども支援・福祉団体とのマッチングを、また市内に拠点を持つ社会福祉法人若草会の協力を得て、就労継続支援B型事業所「若草工房」に通う障害のある方々には、寄贈食品の仕分けと子ども支援・福祉団体への運送(ラストワンマイル)を担っていただき、地域のみなさんが 一体となり、子どもたちの食を救済する取り組みを実施。



当プロジェクトの食品寄贈において初めての試みとなる、

- 寄贈のラストワンマイルの運搬を、地域の社会福祉法人(就労継続支援B型事業所)の福祉車両と利用者に担ってもらう
- 地域の子ども食堂とのマッチングにおいては、東大阪市こども家庭課に担ってもらう

ことでした。

【今回の成果】

- 通常、食品寄贈時に課題となる
 - 課題・ニーズが異なる地域ごとの寄贈の在り方
 - 寄贈先団体への運搬(ラストワンマイル)の担い手不在
 - コスト負担

が弊害になることが多い状況でした。

“東大阪市地域共生モデル”の寄贈スキーム

- 常温で扱える賞味期限で管理する加工食品・菓子を中心に、仕分けとラストワンマイル運送業務を、通常の食品運送していただく企業にお支払いする費用と同額で「若草工房」に業務委託
⇒地域の方々をつなげる機会創出+就労継続B型支援を受けている方の経済的な支援にもつながれたこと

- 地域内の福祉にかかわる各所の直接のつながりと笑顔

本件の趣旨を説明し協力をお願いしたところ、すべての方が趣旨に共感いただき、実際に取り組みを実施
⇒地域にある善意、インフラ、人の思いをつなげ、関わるすべての方々が笑顔でつながる新しい地域共生モデルに